

平成27年度 「大阪市統一テスト」における 港中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市統一テスト」について、平成27年10月15日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- ① テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成28年度入学者大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- ② 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- 原則として、大阪市立中学校及び特別支援学校中学部の第3学年

3 テストの内容

- 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成27年度「大阪市統一テスト」検証シート

学校名	大阪市立港中学校
生徒数(人)	95

平均正答率（点）

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	57.3	46.6	50.5	49.3	49.4
大阪市	64.7	57.4	59.3	55.6	59.8

結果の概要

大阪市平均と比較して全体に6~11%正答率が低い。活用、発展的内容になるとさらに正答率は下がる。またどの教科も記述式の回答形式に弱い傾向が見られる。

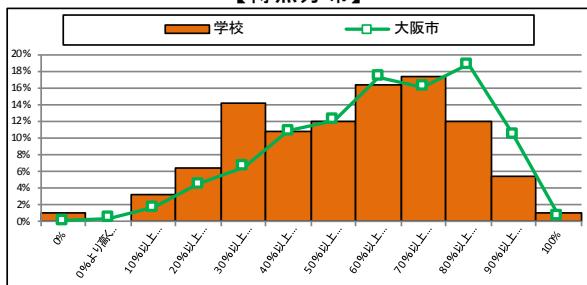
成果と今後取り組むべき課題

全体に平均より低いが、学校での学習活動に取り組む姿勢はできつつあり、授業そのものは落ち着いている。しかし生活アンケートから家庭学習・宿題の時間が短く、習慣づけられていないことが伺え、家庭での自学自習の習慣化が今後の大きな課題となる。宿題など家庭での学習の定着を図る取り組みが必要である。
問題文が長かったり、記述回答の無回答が多かったりなど、じっくり読んで考えて文章にまとめるという一連の学習活動に自信がなく、取り組まない傾向が伺える。教科で多様な言語活動の取組、読書の習慣化、発表・発言などの表現活動の活性化など今後の課題として取組む必要がある。

【各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】



【社会】

【得点分布】

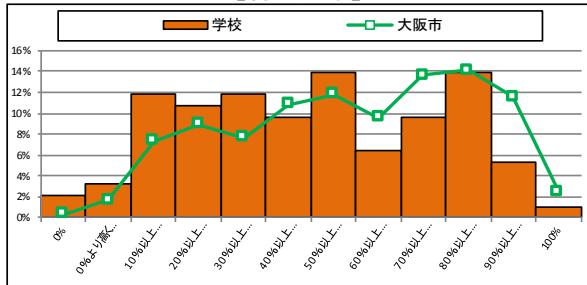


【領域・観点・問題別の分布】

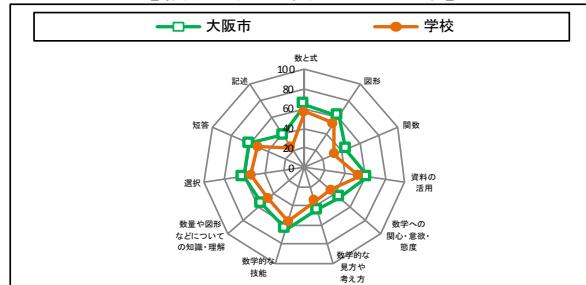


【数学】

【得点分布】

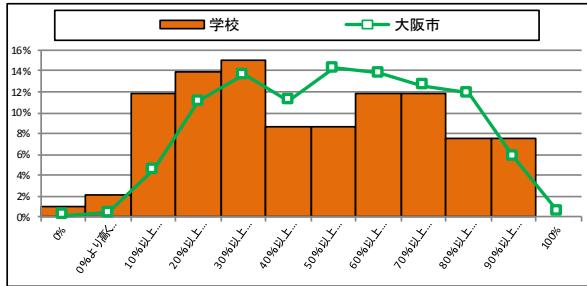


【領域・観点・問題別の分布】

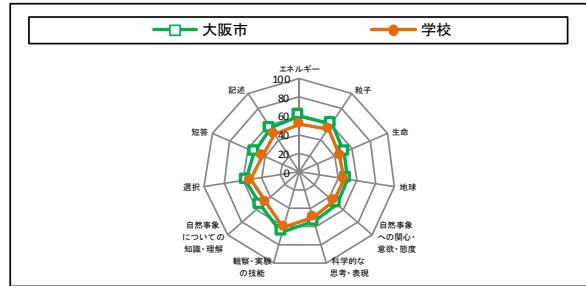


【理科】

【得点分布】

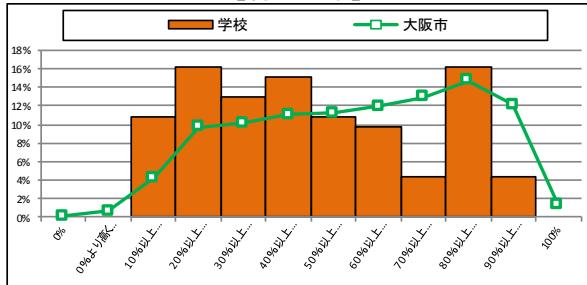


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

